

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 胎児医療に向けた神経発達障害発症機構の解明
2. 研究代表者： 笠井 淳司（大阪大学 大学院薬学研究科 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、対症療法しか選択肢がない発達障害、特に自閉スペクトラム症（ASD）において、発症機構を明らかにし、モデル動物の介入実験による検証を通じて胎児医療を実現するための道筋を示して根本的な精神疾患治療（原因療法）に繋げることを目指している。

フェーズ1では、ヒト型 ASD モデルマウスの社会性行動時の全脳イメージング・全脳活動マッピングを行い、視覚皮質や帯状皮質の特定の脳領域の神経活動が行動異常に関連している可能性を見出している。フェーズ2の研究計画では、関係する脳の領域の解析を進めるなど、焦点を絞って研究を進めることで、神経発達障害発症機構の解明が進展することを期待する。

以上